

食べられなくなったらどうしますか？

認知症のターミナルケアを考える



認知症が進行すると食べるのが次第に困難になり、終末期には食べるができなくなります。食べられなくなったら、どのようなケアが望ましいのか。家族や医療・介護職者にとって、悩みはつきません。日本人の死生観を踏まえた自然な看取りのあり方とは何か？それを実現するためには何が必要か？日本老年学会を構成する7つの老年関係学会は、この問題に取り組み始めました。一緒に考えてみませんか。

●日時：2011年2月27日(日) 13:00～17:30

●会場：東京大学鉄門記念講堂（東京大学医学部教育研究棟14F）

●入場無料・要予約（裏面をお使いください。）

●主催：日本老年医学会

共催：日本老年社会科学会、日本老年看護学会、日本老年学会

協賛：東京大学グローバルCOE「死生学の展開と組織化」

*このシンポジウムは、厚生労働省老健局の国庫補助に基づく実施事業です。

プログラム(概要)

●開会の辞 大内尉義（日本老年学会・日本老年医学会理事長、東京大学大学院医学系研究科教授）

第1部

●基調講演

「認知症高齢者の終末期の医療およびケアをめぐる諸問題」

飯島 節（日本老年医学会倫理委員会委員長、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）

●調査報告

西村美智代（社会福祉法人サン理事長、NPO法人生活介護ネットワーク代表）

諏訪さゆり（日本老年看護学会理事、千葉大学大学院看護学研究科教授）

会田薫子（東京大学グローバルCOE死生学特任研究員）

第2部

●パネルディスカッション

(司会) 大内尉義
甲斐一郎（日本老年社会科学会前理事長、東京大学大学院医学系研究科教授）

鳥羽研二（国立長寿医療研究センター病院長）

太田喜久子

清水哲郎（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

樋口範雄（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

西村美智代

会田薫子

●閉会の辞 太田喜久子（日本老年看護学会理事長、慶應義塾大学看護医療学部長、教授）



「老年医学会シンポジウム事務局」

FAX.03-5337-7962

なお、会場等の都合により人数に制限がありますので、お早めにお申し込みください。

老年医学会シンポジウム 参加申込書

| | |
|-------------|--|
| 1. 申込者氏名 | |
| 2. 所属 | |
| 3. 住所 | |
| 4. 電話番号・FAX | |
| 5. E-mail | |

*お送りいただいた情報は、今回のシンポジウムに関する目的以外では使用いたしません。

*今後、「終末期医療プロジェクト」関係の研究会やシンポジウム等のお知らせをお送りしてもよろしいでしょうか。右のいずれかに○印を付けてください。 可 不可

<参加される方等へ>

1. カメラなどの撮影は、頭撮りのみとさせていただきます。
2. 録音はご遠慮ください。

■ 本シンポジウムに関するお問合せは、下記までお願いいたします。

「老年医学会シンポジウム事務局」

(有)プラセール内

Tel. 0120-971-145

Fax. 03-5337-7962

E-mail. ronon@placer.jp

